

行政報告 2025



問 政策推進係（内線 1421）

生命を最優先

life comes first

いつ・どんな時も「命を守ること」を最優先に取り組んでいます。豪雨や猛暑、渇水が身近な課題となる中、水の確保や避難所環境の改善、ペットと一緒に避難できる体制、備蓄品の充実など、日常から備える対策を進めています。学校体育館へのエアコン整備は学びの環境



向上に加え、災害時の安全な避難場所としても活用できる大きな一步です。また、地域ごとに保健師や管理栄養士が寄り添い、日頃の健康づくりや予防に取り組んでいます。帯状疱疹ワクチン接種をはじめとした予防接種の案内も行い、病気を防ぐ体制を支えています。子どもから大人まで、このまちで安心して暮らせるよう、命と健康を守る基盤づくりを進めています。

年12月議会では、市が
1年間取り組んできた事業や施策の進捗、成果を
「行政報告」として市民の皆さんにお知らせしています。
行政報告は、まちの安全・安心、子育てや福祉、環境、都市基盤づくりなど、暮らしに関するさまざまな分野の取り組みを振り返り、税金の使い道や事業の効果を分かりやすくお伝えするものです。それでは、2025年の市の取り組みを紹介していきます。

生活を支える

support life

物価高騰や生活環境の変化が続く中、市民の暮らしを守るために支援を丁寧に進めています。ゴミ袋の半額継続、プレミアム商品券、学校給食費の負担軽減など、家計に直結する施策を組み合わせ、日々の負担を少しでも減らすことをめざしています。



さらに、バス路線廃止の代替交通「バスタク」事業など、外出を促し、人つながる機会を生み出す取り組みも展開。社会福祉協議会や福祉法人と連携し、高齢者の見守りや買い物支援を広げることで、地域全体で暮らしを支える仕組みづくりを進めています。

将来に備える

prepare for the future

これからも安心して暮らし続けられるまちをめざし、将来を見据えた取り組みを計画的に進めています。財政の健全化を維持しながら、ごみ減量や脱炭素、ワンヘルスの視点を踏まえた環

境対策、公園の活用方法の見直し、創業支援など、まちの持続性を高める基盤づくりに注力。ゴミ袋料金の引き下げによる排出量の減少など、市民との協働による成果も見え始めています。今後は民間のノウハウも生かし、廃食油の回収など資源を循環させる新たな仕組みづくりを進め、次の世代へより良い行橋を引き継いでいきます。



未来の主人公へ

to the future hero

未来を担う子どもたちがのびのび成長できるまちをめざし、教育・子育て環境の充実を進めています。学校では、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育や金融教育、デジタル図書の導入など、これから社会に必要な力を育む学びを広げています。また、「遊び場がない」「暑さや豪雨で外遊びが難しい」といった子育て世代の声を受け、インクルーシブな視点を取り入れた室内型の子どもの遊び場づくりに取り組んでいます。この施設は、市民のみなさんから寄せられた名称とロゴの募集の中から、親しみやすいものが選ばれ、名前は「あそぼっちゃん」に決まりました。ゆめタウン南行橋店に令和8年3月オープン予定の交流拠点として、障がいの有無にかかわらず、安心して遊び、学び、交流できる空間をめざしています。あわせて、妊娠期から出産後まで切れ目なく支えるため、妊婦歯科健診や多胎妊婦健診、新生児聴覚検査、1か月児健診、産婦健診などを市の助成で実施し、安心して子育てができる体制を整えています。



安心を守る暮らしの知恵 消費者行政

特殊詐欺や悪質商法の被害を防ぐため、校区や学校で出前講座を行い、世代に合わせた注意喚起を実施しています。地域と連携した見守り活動も強化し、高齢者が狙われる被害を未然に防止。啓発ステッカーの配布など、日常的に意識



できる環境も整え、安全・安心の暮らしを守っています。

暮らし支える基盤づくり 都市政策・公共交通・インフラ

運動やスポーツ利用を目的とした行事さくら公園の再整備が完了予定。行橋停車場線は令和8年度の供用をめざし工事が進行中。公共交通では「バスタク」を導入し移動手段を確保しました。南行橋駅駐輪場の屋根化、上下水道の耐震



化や老朽管更新など、毎日の暮らしを支える基盤整備を進めています。

学びと挑戦を未来につなぐ 教育・文化・スポーツ

端末更新を行い、ICTを活用した学びを促進。海外体験学習や京築地域未来の地域リーダー育成プログラム、増田美術館での芸術鑑賞など、幅広いジャンルで学びの機会を創出しています。文化財のVR化も推進。スポーツでは多くの競



技を支援し、全国大会出場者を激励金で応援しています。

働く場を広げ未来を創る 企業誘致・雇用対策

市内では新工場の建設が進み、地域での新たな雇用創出が期待されています。産業団地の適地調査も行い、企業が進出しやすい環境整備を推進。合同就職説明会や県との連携により、幅広い世代に働く機会を提供しています。日生産生



移管の影響には序内横断体制で早期対応し、地域経済を支えています。

しています。多様な視点で行橋の魅力を伝え、訪れたくなるまちづくりを進めています。

行橋の魅力をもっと発信 観光・シティプロモーション

「映像撮影ロケーション窓口」を設置し、映画やCMの制作会社をワンストップでサポートしていきます。市の魅力をまとめた観光パンフレットも制作中。サイクルスタンド整備を広げ、自転車で気軽に周遊できる観光スタイルを推進



しています。多様な視点で行橋の魅力を伝え、訪れたくなるまちづくりを進めています。

まちの元気を取り戻す 商工業・にぎわいづくり

こすもっぺや産業祭などのイベントでは、コロナ禍以前を上回る賑わいが戻りました。新たに創業支援事業補助金制度を設け、開業や経営の安定化を後押しすることで、市内経済の活性化を図っています。また、土曜夜市や駅前イルミネーション



を継続し、人の流れを生み出すことで、中心市街地の回遊性向上につなげています。

誰もが支え合える社会へ 福祉・健康・子育て支援

校区ごとに保健師や管理栄養士を配置し、地域の健康課題に寄り添った支援を実施。障がいのある方には、希望に合った働き方を選べる「就労選択支援」を開始。妊婦歯科検診や新生児聴覚検査など6つの新規事業で、妊娠期から産後ま



で切れ目ない支援を整備。「花はすお話し会」や高齢者の見守りなど地域で支え合う体制を強化しています。

ここからは具体的な施策を紹介します。

報告の全文は、動画で見ることができます。

ご興味ある方は、行橋市議会公式YouTube「令和7年12月定期会本会議1日目」をご覧ください。



備えて守る安心のまち 安全・安心のまちづくり

災害時に確実に行動できる体制づくりを進めています。避難所運営訓練では受付や動線、要配慮者への対応を確認し、防災井戸を2か所新設して断水時の生活用水を確保。消防無線や救急車両、救急車の更新、消防団施設の整備により、



地域の初動体制を強化しています。消防庁舎も、安全性向上に向け建替え・移転を検討しています。

届く広報でつながる力 情報発信（ハイブリッド広報）

紙とデジタルを組み合わせた広報を進めています。広報紙は見出しやレイアウトを見直し、伝わりやすい紙面へ改善。Instagramのフォロワーは大幅に増加し、若い世代への発信が強化されました。TikTokも開始し、制度やイベントを短い



動画で紹介。市長の「まちかど報告会」では市民の声を直接受け止め、市政へ反映する場を広げています。